RIPLA

プロジェクト事例や失敗しがちなポイントも交えて徹底解説！

Excel・スプシ運用の棚卸しから始める現場DX

～集計フローの自動化によるデータ活用術～

本日のアジェンダ

1. 現場のExcel・スプシ運用が直面する「理想と現実」
2. 集計フローの棚卸しと再設計のステップ
3. 定着化のコツ＆データ基盤化に向けた「 3つの論点」
4. アンケートと個別診断のご案内

本資料がおすすめの方

本資料では、Excelやスプレッドシートを使った日々の集計業務に限界を感じている方に向けて、現場の混乱を招かずに「属人化を解消する第一歩」をどう踏み出すべきか、その具体的なステップをお伝えします

ターゲット	経営企画や部門マネージャー、DX推進担当者など 現場のExcel・スプシ運用に課題を抱えている方
目的	「どの業務から手を付け、どこまでをシステム化すべきか」が明確になり、 脱属人化のためのデータ活用フローへと一歩踏み出せる状態になること

本日お伝えしたいこと

脱Excel・属人化解消の鍵は、
いきなりのツール導入ではなく、
入力・集計・報告を切り分ける ”業務の再設計” にある

アジェンダ①

現場のExcel・スプシ運用が直面する「理想と現実」

現場のExcel・スプシ運用における理想 vs 現実

RIPLA

現場のExcel・スプシ運用におけるよくある理想と現実として、以下のような内容があげられます

	理想	現実
ファイル管理	**常に最新のデータが一元管理されている** 「一つのファイルを見れば、全員が正しい同じ数字を共有できる。」	**果てしないファイルの乱立** 「『〇〇集計_最新_v3_最終.xlsx』が散在し、どれが正解の数字なのか誰にも分からない。」
集計プロセス	**誰でも同じ手順でミスなく集計できる** 「オペレーションやフォーマットが統一されており、担当者が変わっても業務が回る。」	**属人化とブラックボックス化** 「複雑な関数や退職者のマクロが神格化。担当者が休むと数字が出ず、誰も触れない。」
意思決定のスピード	**見たい数字が即座に可視化される** 「経営会議の直前でも最新データが揃い、タイムリーな判断ができる。」	**集計の長期化によるタイムラグ** 「予実集計の手作業だけで毎月数日潰れ、報告時にはすでに情報が古くなっている。」
システム化・DX	**ツール導入でExcel作業から解放される** 「新しいシステムやRPAを入れれば、面倒な手作業はすべて自動化される。」	**”負の遺産”の自動化とExcel作業の復活** 「業務ルールが曖昧なままツールを入れた結果、エラーが頻発し、結局Excel作業に戻る。」

Excel・スプシ運用が生む「3つのブラックボックス」

RIPLA

属人化は、担当者のスキル不足ではなく、Excel・スプシというツールの「手軽さ」が引き起こす構造的な問題です

1	数式・マクロの複雑化	長年の「継ぎ足し運用」により、作った本人ですら全体像が把握できないスパゲッティ状態に。
2	例外処理のファイル内埋没	「このイレギュラーは手打ちで修正する」といった、現場の暗黙知がファイル内に隠れてしまう。
3	「入力・集計・報告」のステップの混在	1つのファイルにデータ入力、重い関数での集計、グラフ化が全て詰め込まれ、少しの入力ミスがバグに直結する。

アジェンダ②

集計フローの棚卸しと再設計のステップ

ステップ1：棚卸し ~集計フローの現状整理~

RIPLA

いきなりシステム化を考える前に、まずは現状のExcel・スプシ運用を可視化します

「誰が・何を・どこへ」を整理

・入力元（誰がデータを入れるか）

・処理（どんなVLOOKUPやマクロが組まれているか）

・出力先（誰が、何の会議でその数字を見るか）

やめる業務の棚卸し

・「誰も見ていない謎の定例レポート」は、この機に廃止する。

・予実管理など「経営へのインパクトが大きく、かつ集計のコストが最も大きい業務」から優先順位をつける。

ステップ2:「責務の分離」による再設計

RIPLA

1つのファイルにすべてを詰め込む万能集計ファイルからの脱却が、属人化解消の鍵です

1 【入力】事実データを集める	・ツール:スプレッドシート、入力フォームなど ・役割:現場が迷わずシンプルに入力できるUIが重要。
2 【集計】ロジックを固定・自動化する	・ツール:スモールスタート向けのデータ集約基盤(BigQuery等) ・役割:手作業のコピペを自動連携(パイプライン)に置き換え、ミスと工数をゼロにする 。
3 【報告】意思決定のために可視化する	・ツール:BIツール、閲覧専用のスプレッドシート ・役割:最新の正しい数字だけを表示し、絶対に直接編集させない。

【事例】店舗別レポートの乱立を解消したパイプライン構築

RIPLA

「毎月、各店舗から送られてくる数十個のExcelをコピペで合体させる」という丸2日間の作業をゼロにした事例です

Before（課題）

・各店舗が独自のフォーマットで実績を Excel入力してメール送信。

・本部担当者が手作業で転記・ VLOOKUPで結合。
毎月末に丸2日残業が発生し、経営会議への報告にタイムラグが起きていた。

After（解決策）

入力：各店舗は統一された Googleフォームに入力。

集計：入力データが自動で BigQueryに連携・集約されるパイプラインを構築。

報告：マネージャーは BigQueryと連携したスプシを開くだけで、常に最新の全社集計データが閲覧可能に。結果としてマネージャーが赤字店舗の兆候を 2週間早く検知できるようになり、事前に対策を打てるように。

現場DXで失敗しがちなポイント

RIPLA

「そのままツールを導入」ではExcel・スプシ業務の復活を招きます

✕ **今の複雑な業務フローをそのまま RPAで自動化する**
→ 例外処理でエラーが頻発し、結局Excel・スプシ運用の元の手作業に戻ってしまう

✕ **見よう見まねの自作パイプラインは技術的負債につながる**
→「スプシからBigQueryに繋ぐだけ」と他社事例などを参考に安易に構築すると、拡張性のないスキーマ設計になり、半年~1年後に再度作り直しになる

○ **裏側はシステム、表側は現場に合わせる**
→ 業務フローを整理の上で拡張性のあるデータ構造を設計。
→ その上で現場のExcel・スプシといったUIは極力残しつつ、裏側の重い集計処理だけをツールに逃がすスモールスタートが最も確実。

アジェンダ③

定着化のコツ＆データ基盤化に向けた「 3つの論点」

論点1:ツールの選び方

RIPLA

最初から高額なBIツールやETLツールを導入する必要はありません。既存ツールで小さく始めるのが鉄則です

1	既存ツールで スモールスタート	Google Workspaceユーザーであれば、 1. スプシやGoogleフォームでの入力 2. BigQueryでの集計 3. Connected Sheetsを用いた報告 コストを抑えつつ、大量データでも固まらない・重くない、快適な集計環境をいち早く現場に届ける。
2	全社展開に合わせて拡張	データ量や見たい切り口が増えてきた段階で、Looker StudioやTableauなどの本格的なBIツールを導入検討する。

論点2：推進体制の作り方

RIPLA

情シスやDX推進部門だけで推進すると、現場との温度差でうまく進まないケースが多いです

業務を最も熟知している「現場のキーマン」を巻き込む	例えば、現状の複雑なExcelを作った担当者を味方につけ、初期段階からプロジェクトに参画してもらう。
IT部門と業務部門の「役割分担」を明確に	・IT/DX部門：データパイプラインの構築、DWHの運用保守、セキュリティ担保 ・業務部門：業務ルールの明文化、データの品質チェック、例外処理の定義

論点3：運用のルール整備

RIPLA

せっかくデータパイプラインを構築しても、使われなければ意味がありません。定着させるための仕組みが必要です

会議体とシステムをセットで運用する	・経営会議や定例会では、必ずシステムから出力された画面を見て意思決定するというルールを設定する。 ・自分用のExcelで集計し直した数字は会議で受け付けない。
指標の変更管理のプロセスを決める	・ビジネス環境の変化に伴う集計ロジックの追加・変更要望は必ず発生する。 ・「誰に・どう依頼すればシステムが更新されるか」のフローを事前に決めておく。

本日のまとめ

RIPLA

1 脱Excel・属人化解消の鍵は「責務の分離」	1つのファイルに詰め込まず、「入力・集計・報告」の役割を明確に切り分ける。
2 いきなりツールを入れず、まずは棚卸しから	「誰が・何を・どこへ」を可視化し、不要な業務をやめる決断をする。 インパクトの大きい業務からスモールスタートで着手。
3 定着させるための「3つの論点」	1. ツール：Google Workspaceなど既存環境でスモールスタート 2. 体制：IT部門だけでなく、業務を熟知した現場のキーマンを巻き込む 3. 運用：会議体とセットでシステムを利用するルール化による定着化

サービス紹介

お客様のよくある課題

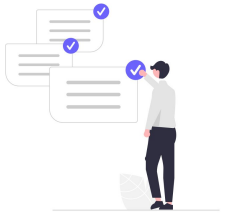
RIPLA

プロダクト開発やシステム開発における、Quality（品質）・Cost（価格）・Delivery（納期）にお悩みはありませんか？

プロダクト開発における課題

1

プロダクト開発の最適な進め方やあるべき姿が分からない



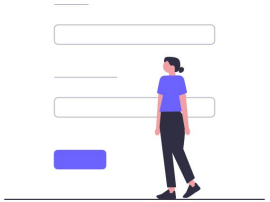
2

プロダクト開発にかかるコストや納期が大きい

システム開発における課題

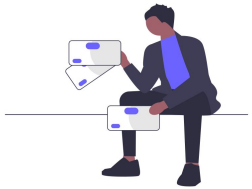
3

システム開発の最適な進め方やあるべき姿が分からない



4

システム開発にかかるコストや納期が大きい

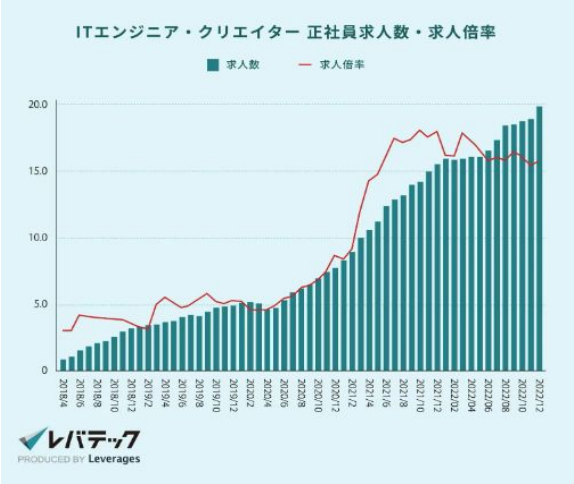


お客様のよくある課題

RIPLA

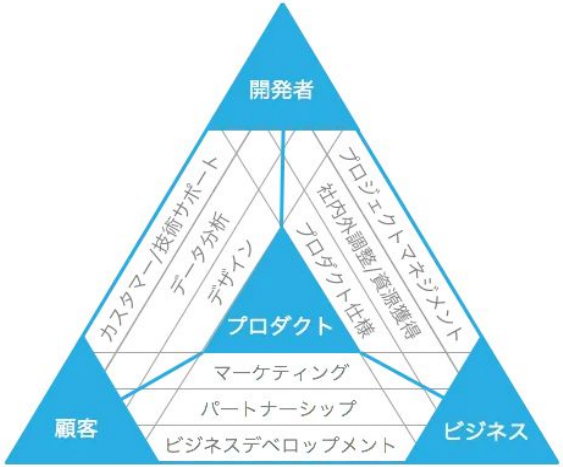
一方で、プロダクト開発やシステム開発のノウハウをもつ人材は採用が難しく、また、自己学習するには必要な知識が多く時間がかかります

開発人材の求人倍率 ＊1



＊1：ITエンジニア・クリエイターの求人倍率、15.8倍と高止まり続く｜レバレジーズ株式会社のプレスリリース
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000531.000010591.html

開発に必要とされる知識 ＊2



＊2：プロダクトマネジメントトライアングルと各社の PM の職責と JD | by Taka Umada | Medium
https://tumada.medium.com/product-management-triangle-job-description-d18d1855ef65）

事業内容　～Impact-Driven型支援～

RIPLA

IT事業会社出身のプロフェッショナルが、「Impact-Driven型支援」を通じて、お客様のDX/開発支援を成功へ導きます

RIPLAが提供するサービス

業務DXコンサル
- DX戦略策定
- 業務プロセス変革

システム開発
- 業務システム導入・刷新
- 業務システム開発

Impact-Driven型支援
IT事業会社出身のプロフェッショナルが、事業成果の達成を目的にDX/開発支援

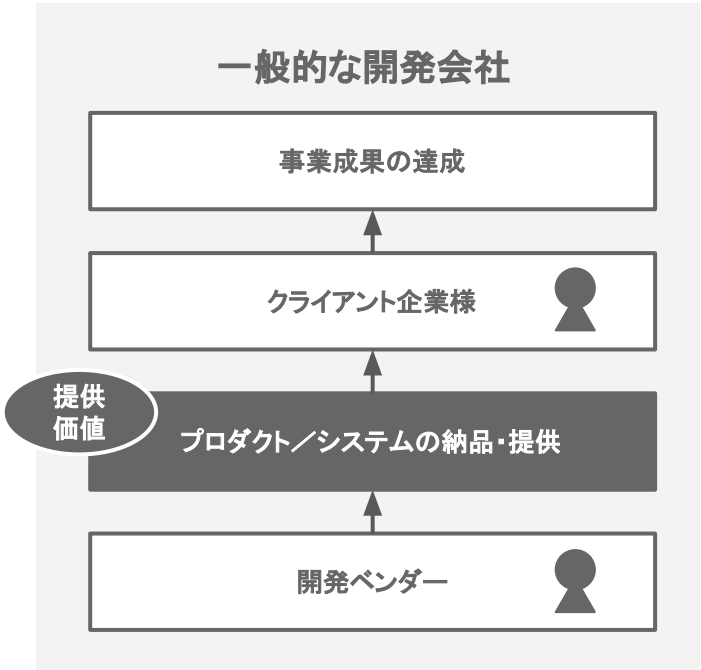
データ/AI活用
- データ基盤構築
- AI開発

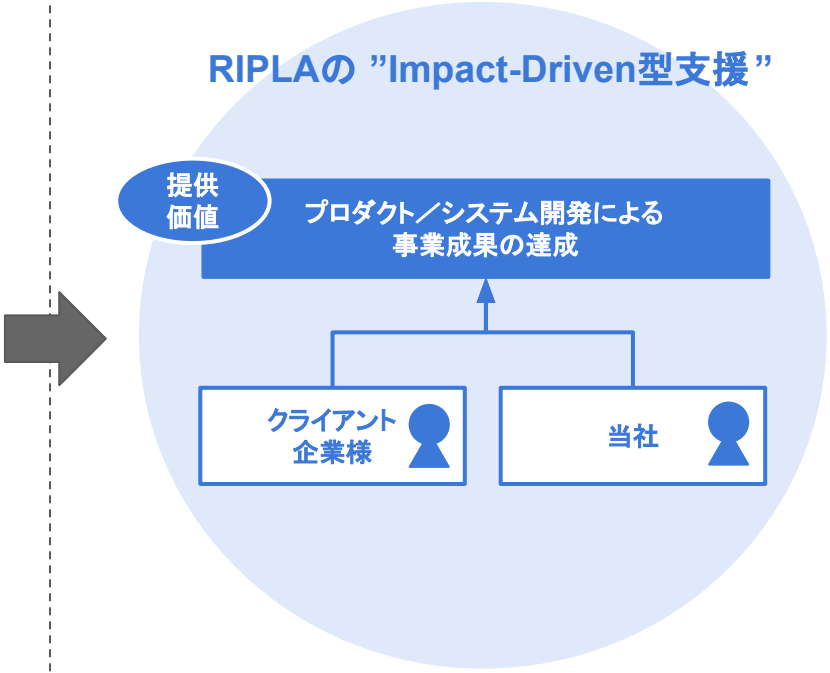
プロダクト開発
- SaaS・マッチングサイト
- EC・アプリ

事業内容　～Impact-Driven型支援～

RIPLA

「Impact-Driven型支援」では、プロダクトやシステムの納品・提供をゴールとせず、クライアント企業様と同じ目線で、事業成果の達成を目的としたDX/開発支援をいたします





事業内容　～Impact-Driven型支援～

RIPLA

具体的な支援手法として、ユーザー価値や組織浸透性を意識した要件定義、中長期の拡張性や内製化を見据えたシステム設計により、事業成果を最大化いたします

事業成果を意識した要件定義

- ✔ 事業成果やユーザー価値を意識したプロダクトの機能企画や UI/UX設計
- ✔ 現場業務や組織浸透性を意識したシステムの要件定義

中長期目線で柔軟なシステム設計

- ✔ 中長期の拡張性や運用を見据えたアーキテクチャ設計
- ✔ 将来的な内製化に向けた採用しやすい技術選定

“Impact-Driven型支援”により、事業成果を最大化

事業内容　～Boxシリーズ×AI駆動開発～

RIPLA

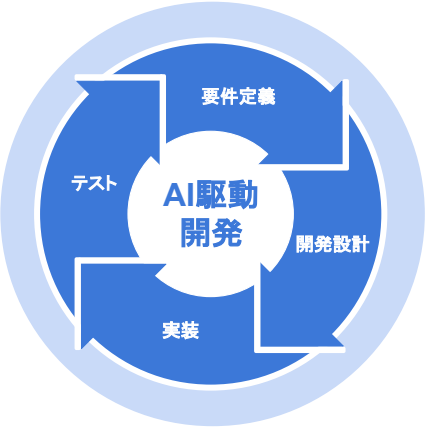
「Boxシリーズ」による標準機能の高速開発と、「AI駆動開発」による独自機能の柔軟な実装を組み合わせることで、低コスト・短期間で開発を実現いたします

Boxシリーズ

受発注管理Box
在庫管理Box
配送管理Box
業務システムBox
生成AI Box
SaaS Box
マッチングサイトBox
EC Box
アプリBox
LINE Box

＋

AI駆動開発



事業内容　～Boxシリーズ×AI駆動開発～

RIPLA

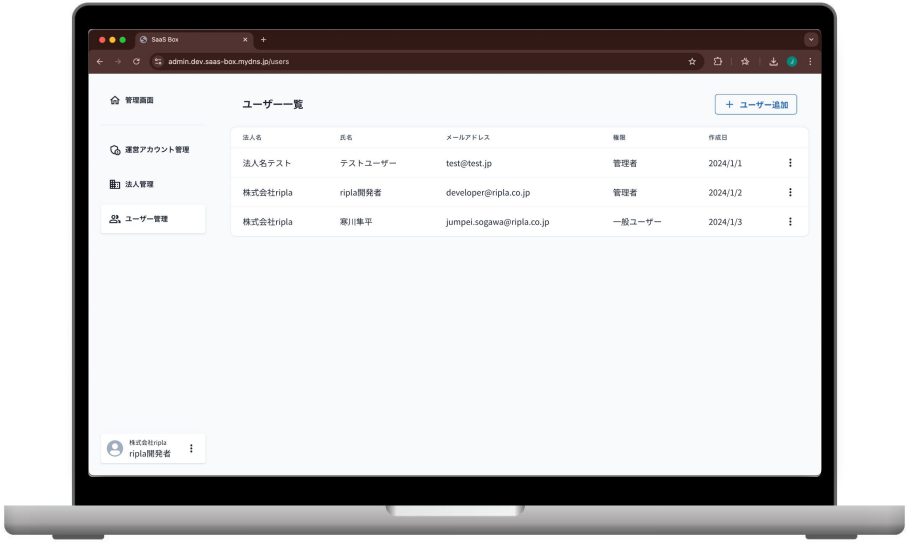
テンプレート開発（＝Boxシリーズ）とAI駆動開発を併用することで、Q（拡張性）・C（コスト）・D（納期）の三点両立を実現いたします

		スクラッチ開発	テンプレート開発 ×AI駆動開発	パッケージ開発
標準機能 ※各社のシステムで共通して必要となる機能		ゼロから開発 ※制約なし	Boxシリーズに標準搭載	パッケージに標準搭載
独自機能 ※各社や各業務ごとに特有要件がある機能			AI駆動開発 ※制約なし	追加開発 ※制約あり
メリット/デメリット	拡張性（Q）	○	○	×
	コスト（C）	×	○	○
	期間（D）	×	○	○

事業内容　～Boxシリーズ～

RIPLA

モダンな技術とUI/UXで各画面の開発・実装をしているため、そのまま使用することが可能です



モダンな技術とUI/UXで
標準機能を搭載

事業内容　～Boxシリーズ～

RIPLA

Boxシリーズに搭載されている機能例は以下となります（以下一部）

Box名称	受発注管理Box	在庫管理Box	配送管理Box	業務システムBox	生成AI Box
機能例	・ログイン機能 ・ユーザー管理 /権限管理 ・マスタ管理 （受注/発注/商品） ・受注/発注管理 ・需給予測 ・インフラ構築	・ログイン機能 ・ユーザー管理 /権限管理 ・マスタ管理 （出荷先/入荷元/商品） ・出荷/入荷管理 ・在庫管理 ・インフラ構築	・ログイン機能 ・ユーザー管理 /権限管理 ・マスタ管理 （届け先/商品） ・配送管理 ・配送最適化機能 ・インフラ構築	・ログイン機能 ・ユーザー管理 ・権限管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築	・AI チャット機能 ・RAG基盤 ・ベクトルDB基盤 ・検証用画面 ・バッチ処理 ・インフラ構築

Box名称	SaaS Box	マッチングサイト Box	EC Box	アプリ Box	LINE Box
機能例	・ログイン機能 ・ユーザー管理 /権限管理 ・法人管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築	・ログイン機能 ・ユーザー管理 /権限管理 ・マッチング機能 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築	・ログイン機能 ・ユーザー管理 /権限管理 ・マスタ管理（顧客 /商品） ・受注管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築	・ログイン機能 ・ユーザー管理 /権限管理 ・プッシュ通知機能 ・アプリUI（iOS/Android） ・管理画面 ・インフラ構築 ・リリース申請	・LINEログイン ・リッチメニュー基盤 ・LINE配信機能 ・公式アカウント情報連携 ・ユーザー管理 /権限管理 ・インフラ構築

RIPLAの対応技術

AI・モダンな技術・クラウド型・APIなどの最新技術を活用することで、新規性のある取り組みや、拡張性や柔軟性の高い開発に対応可能です

AIを活用した業務効率化や新たな価値創出

AI技術を活用することで、業務プロセスの自動化、レコメンド機能、自然言語処理、画像解析などが可能になります。

モダンな技術を活かした高品質な開発

最新のモダン技術を活用することで、ユーザビリティの高いUI/UX設計、保守性の高いアーキテクチャを実現します。

クラウド型で拡張性のあるシステム構築

クラウドインフラを活用することで、柔軟かつ拡張性の高いシステムを構築し、初期投資を抑えることも可能です。

API連携による柔軟な外部サービス連携

外部システムやSaaSとのスムーズな連携を前提としたAPI設計を行うことで、機能追加や業務連携が容易になります。

RIPLAの対応技術

RIPLA

また、お客様のニーズに応じて、幅広い技術を取り扱うことができます

フロントエンド

JS TS TypeScript React Vue.js ANGULARJS NEXT.JS NUXTJS HTML CSS

バックエンド

GO python django php Laravel Java spring Ruby RAILS GraphQL

AI関連

OpenAI Azure AI Document Intelligence Gemini Claude qdrant Dify LangChain

アプリ

Swift Kotlin Flutter

DB関連

MySQL PostgreSQL Amazon RDS Amazon DynamoDB Cloud Firestore mongoDB

クラウド技術・その他

aws Google Cloud Platform Firebase Terraform docker

RIPLAの支援実績

RIPLA

これまで多数の業務DXコンサル、データ/AI活用、システム開発、プロダクト開発の支援実績がございます

業務DXコンサル

・販売 / 顧客管理システムの刷新
・大手建設企業のDX戦略策定
・金属商社企業の基幹システム刷新
・広告SaaSのマルチプロダクト構想策定
・印刷EC新規事業の構想策定など

データ/AI活用

・訪問看護のAI FAQシステム
・AIデータ分析SaaS
・ホテル向けのデータ基盤構築
・AI画像解析による商品棚在庫管理
・コーチングのAIチャットボットなど

システム開発

・物流系WMS / OMS
・ガソリンスタンド受発注管理システム
・営業ナレッジマネジメントシステム
・訪問看護のスケジュール管理システム
・ドローン機器管理システムなど

SaaS

・研修管理 / 学習管理SaaS
・LINEチャットボットSaaS
・SFA / CRM SaaS
・設備保全管理SaaS
・採用管理SaaS など

マッチングサイト・ EC

・インフルエンサーマッチングサービス
・求人検索メディア
・美容師マッチングサービス
・ビジネスマッチングサービス
・オンラインチケット販売EC など

アプリ

・献立共有アプリ
・旅行ガイドブックアプリ
・医療用スマホアプリ
・スポーツゲームアプリなど

RIPLA